

**[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]**

**[区分 基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。]**

■基準Ⅱ-A-1の自己点検・評価

(a) 現状

本学の教育課程は、平成26年度に建学の精神に基づいた教育理念、教育目的及び教育目標に関連づけた三つの方針を定めている。

学位授与の方針は、教育理念、教育目的、教育目標から導き出された次の三つを定めているが、この内容は本学の目指す望ましい教育者、保育者としての学習成果にも対応している。

**【学位授与の方針】**

- ①幅広い教養及び総合的な判断力を有し、社会人としての義務と責任が果たせること。
- ②教育課程・保育課程を理解し、教育・保育実践に必要な専門的知識・技術を修得していること。
- ③身に付けた教育観・保育観に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの成長発達に寄与できること。

卒業の要件は学則第31条及び第32条で定めており、卒業を認定した者には学則第32条2により短期大学士の学位を授与するとしている。

幼稚園教諭免許や保育士資格に関わる単位取得は大多数の学生が免許、資格を取得し、学科開設以来、多くの卒業生が幼稚園教諭、保育士、施設職員として採用されている。現在も多くの卒業生が免許・資格を生かして保育者として働いており、こども学科の学位授与の方針は、社会的に通用性があると考えている。

(b) 課題

学位授与の方針は、時代の変化や学生の変化などにより、本学が社会に送り出した学生と社会が求める人材像について乖離が生じてくる可能性がないとはいえない。今後は卒業生の就職先を中心に、望ましい保育者像や現場の求める保育内容等の調査等の振り返りの作業が必要であり、学位授与の方針とともに卒業要件や成績評価基準についても定期的な点検を進めていく必要がある。

**[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している]**

■基準Ⅱ-A-2の自己点検・評価

(a) 現状

平成26年度に関東短期大学教育体系を全教員で検討・編成し、教育理念、教育目的、教育目標から導き出される教育課程編成・実施の方針を定めている。

その方針は次のとおりで、入学者受け入れの方針や学位授与の方針及び学習成果とも対応している。

【教育課程編成・実施の方針】

- ①幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、品性ある豊かな人間性を涵養するための基礎教養科目群と専門教育科目群を配置する。
- ②時代の変化に対応する教育・保育に関する理解を深めるために、教育、保育、福祉の基礎知識と理論に関する科目を配置する。
- ③教育者・保育者としての実践力を養うために、演習科目、実習に関わる科目を配置する。
- ④社会や学生の多様なニーズに応じた学びを促すために、五つのフィールド（音楽・表現、心理、スポーツ、栄養・食物、ビジネス）に基づく専門教育科目を配置する。

幼稚園教諭と保育士、二つの免許・資格を取得するためには、本学では最低87単位の取得が必要である。履修科目は、教養科目、教科科目、教職に関する科目、保育士科目と、四つに大別されている。

各科目の授業内容は、シラバスに授業目標、評価基準、講義計画（内容・項目）、成績評価の方法、教科書・参考書等、その他を明示している。また、ウェブサイト上でも広く公開している。

成績評価は学則第30条及び「関東短期大学履修及び試験規程」第7条に則り、シラバスに示された成績評価方法に沿って厳正に行っている。また、国家資格取得にも関わるため、その基準は厳格に定めている。

教員配置については、「短期大学設置基準」の規定を満たす専任教員及び国家資格に関わる教科科目に求められる基準を満たす教員を配置し、幼稚園教諭及び保育士養成教育課程の分野ごとに専任教員を充当することによりバランスのよい教員配置としている。短期大学として必要な教養教育に加え、教育者や保育者としての実践的能力や資質を高められるよう、幼稚園・保育所の現場で長いキャリアを積んだ教員を多く採用している。専任教員又は非常勤教員を問わず意欲的に授業や研究活動、学生指導に取り組んでいる。

教育課程の見直しについては、免許や資格取得に必要な教科目の内容並びに教養科目内容についても毎年度、定期的実施している。

(b) 課題

子ども子育て新システムなど新しい保育環境に対する理解や保護者支援など、保育者に求められる知識、能力も多様で高度化しているため、まずは社会人としての基礎的な能力向上のためのプログラム検討が必要である。また、非常勤講師を含めた全教員会を年に2回実施しているが、保育者として必要な知識、技術に対する教員全体が共通認識を持てる工夫と、教員が一致して適用できる評価基準の作成等を検討していくことも課題である。

**【区 分 基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確にしている】**

■基準Ⅱ-A-3の自己点検・評価

(a) 現状

本学の入学者受け入れの方針は、関東短期大学教育体系に基づき下記の項目を定めている。

**【入学者受け入れの方針】**

- |   |
|---|
| ①教育者・保育者を目指して日々努力し、成長しようとする人<br>②子どもへの関心が高く、深い愛情が持てる人<br>③他の人との良いコミュニケーションがとれる人 |
|---|

この内容は、学位授与の方針に関連して、社会・地域に貢献できる人間性豊かな専門職である幼稚園教諭・保育士の育成を目指すという、学習成果に対応した方針を示している。

入学者受け入れの方針は、学校案内、学生募集要項、ウェブサイト上にも掲載して公開している。年に10数回実施するオープンキャンパスに参加する高校生や保護者にも明示して周知を図っている。

入学者選抜の方法は学生募集要項で示し、入学者受け入れの方針に基づいて入学試験を実施している。入学者選抜は推薦入学試験、一般入学試験、AO選抜、大学入試センター試験利用と多様な入試方法を取り入れ、社会人入学試験も設けている。

受験者の高校における学習成果の把握と評価は、各入学試験に際して提出する調査書と、推薦入学試験においては面接結果、一般入学試験においては筆記試験及び面接結果をもとに総合的に判定している。また、受験生が事前に参加したオープンキャンパスや入試相談会における面談記録なども参考にしている。自ら考え能動的に学ぶ態度を身につけ、知識・技術を習得し、社会に貢献しようとする意欲的な学生の受け入れを目指すため、一般入学試験、センター試験利用入学試験以外の入学試験においては、面接の結果を重視して入学者選抜を行っている。

(b) 課題

入学者受け入れの方針は、教育理念や教育目標と深く関連している。社会の変化に対応して見直し求められる部分もあり、継続的に見直していく必要がある。

**【区 分 基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である】**

■基準Ⅱ-A-4の自己点検・評価

(a) 現状

こども学科では、教育理念及び教育目標に基づいて教育課程の編成・実施の方針を示し、学習成果として最終的に短期大学士の学位と幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得することを目指している。

教育体系を検討する際、三つの方針に対応する学習成果を次のように定めている。

【学習成果】

- ①建学の精神を理解し、豊かな人間性と社会性を身に付け、論理的思考力・表現力・共感力を有している。
- ②子どもの成長発達に寄与するための教育・保育に関する豊富な知識と技能・技術を有している。
- ③社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、他者理解及び自己管理の能力を有している。

教育課程は、教養科目と専門教育科目を学年進行と修学状況を踏まえて体系的に編成し、各授業科目はシラバスに到達目標を示すなど、それぞれの段階における学習成果や資格取得に向けた学習成果を具体的に明示している。

各授業の到達すべき目標は、いずれも達成が可能なように授業計画が立てられ、授業計画に示す内容に沿って進める過程で学習の習熟度を測るなど、各教員がそれぞれ工夫をして到達目標や学生成果を達成可能にしている。

各授業の一部は通年科目で構成しているが、前学期・後学期の学期完結型が多く、それぞれの授業では、学習成果を一定期間内に獲得することを前提に到達目標を定め、授業計画に沿って授業を進めている。学期ごとに定期試験又はレポート提出や実技試験を実施して、到達目標に達しない場合は再試験を行うことで、一定期間内に学習成果が獲得できるように配慮している。

また、教養科目と専門教育科目の学習成果には、最終的には短期大学士の学位と幼稚園教諭二種免許と保育士資格だけではなく、授業科目によっては資格・検定取得が目標設定されているものがある。外部機関による資格や検定を目標とすることで学習への動機づけが高まり、授業の成果として自ら知識・技術の修得度を測ることができる。また、本学では資格、検定の取得は社会人基礎力として具体的な明示にもなることから、学生に奨励している。

幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するための教育・保育実習科目については、「教育実習要綱」、「保育実習要綱」の中で実習目的、実習目標及び実習方法について具体的に示している。また、教育・保育実習においては、教育実習支援室及び保育実習支援室を設け、個々の学生の到達度に応じて必要な支援を実施している。

講義科目及び演習科目（教育・保育技術を含む）の学習成果の到達度については、各担当教員による評価基準に基づき、定期試験又は課題レポート、ポートフォリオの提出等によって評価し、この評価基準と評価方法は教科目ごとにシラバスに示している。教育・保育技術に関する演習科目では実践力を身につけるため、実技試験を実施している。実技の合否判定は、動作項目別に評価項目を設定して評価し、不合格者に対しては、再試験を実施するなど目標達成に向けて指導体制を厚くし、最終的に全員が確実な技術修得ができるよう支援している。このように、教科目ごとに定める評価基準に基づいて、学生の理解度を測りながら授業を実施することで、学習成果は達成可能であり一定期間内に獲得できるようにしている。

学習成果の評価は、学則第 30 条及び「関東短期大学履修及び試験規程」第 7 条により A・B・C・D の 4 段階としている。各成績は点数化し、A (100～80 点)、B (79～70 点)、C (69～60 点) として表し、A～C を合格として単位を認定し、D (59 点以下) は不合格で単位を認めていない。E の標語 (出席日数不足、試験欠席等) は成績評価の対象外で、当然単位を認定しない。また、教育・保育実習の評価は各実習の評価基準に基づいて、実習先の実習指導者と実習担当教員の双方の評価に加え、教員の事前・事後指導の授業における評価、実習中の態度などを点数化して総合的に評価している。

成績評価に基づいて、A=3 ポイント、B=2 ポイント、C=1 ポイント、D・E=0 ポイントとして、量的評価としての総合成績評価 (GPA) を算出し、卒業時の学長賞ほかの荣誉賞授与の参考資料としている。

#### (b) 課題

学習の量的評価に関しては、GPA の算出で測定可能であるが、評価に教員ごとの基準差が生じることは避けられない。各評価は絶対評価が中心であり、教員間の評価の客観性を検証することは困難といえる。加えて、どのように質的評価を行うか、学習成果で求める人間性、社会性などを測定する有効なツールによる評価基準を見出すことは今後の課題として残っている。

### [区 分 基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている]

#### ■ 基準Ⅱ-A-5 の自己点検・評価

##### (a) 現状

本学は地理的条件から群馬県、埼玉県、栃木県、茨城県からの進学者が多い。学生の多くは出身地での就職を希望しており、実習先も出身地の幼稚園、保育所、施設を希望することが多い。実習中に、実習先から採用試験を受けるよう要請されたり、卒業後の採用を約束される学生もおり、就職につながる学生もいる。

進路先からの評価は、卒業生を採用した実習先への巡回指導の際に、卒業生の知識・技術内容や資質に関して聴取している。また、本学の教育内容や方法の改善等についての意見や助言を得て、養成教育の改善に資することもある。幼稚園や保育所等からの求人の際に、本学の採用枠を聴取する際の反応や実際の採用数から、本学に対する評価を判断することもある。

毎年度卒業生にアンケートを実施し、卒業後の就業継続の状況や勤務上での問題点等を調査している。就職の支援体制や具体的な課題、改善点を検討し進路支援に活用している。

##### (b) 課題

卒業生に対する就業調査アンケートについて、最近は回収率が下がる傾向が続いたため、平成 26 年度は記述式の質問に代えて選択回答方式にした。卒業生の意見だけでなく、就職先からの断片的な聴き取りだけでは本学の教育内容や保育者養成の課題を明確に把握できないため、平成 27 年度から就職先へのアンケート調査を予定している。その結果を、FD 活動の一環として教員間で共有し、教務検討会議で教育課程の修正を

検討するなど活用していきたい。

**[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]**

**[区分 基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している]**

■基準Ⅱ-B-1の自己点検・評価

(a) 現状

教員は、シラバスに示してある成績評価の基準により学生の成績を評価し、学位授与の方針に対応する学習成果を判断している。特に1・2年次生ともにクラス担任は、全学生の学期ごとの成績を把握しており、学生の保護者にも成績表を通知して学習の成果を共有している。

毎学期終了時には学生による授業評価アンケートを実施し、その集計結果を授業担当教員に通知しており、各教員はアンケート結果を授業計画や授業改善のために活用するよう求められている。

教科目によっては、授業内容が他科目と関連性の高い科目があり、担当教員間で授業内容についての意思疎通、調整を図っている。特に器楽関連の科目では、非常勤講師が多いため、年2回の音楽講師会議を開催して授業内容や成績評価の調整を図っている。

教員のFD活動の一つとして、ほとんどの教員が参加するオープンキャンパスの模擬授業を利用している。年に15回実施するオープンキャンパスでは、年間計画で授業担当教員が交代で模擬授業を行い、参加教員の授業改善に資する活動としている。また、新任教員や経験の浅い教員は、学生への履修説明や幼稚園教員免許や保育士資格取得のためのガイダンスに学生と共に参加し、2年間の学修、学生生活について理解を深めている。

2年間の担任教員を中心としながらも、小規模校の利点である教職員間の意思疎通が図りやすく、入学から卒業までの学生支援に関して共通認識が図られている。

事務部門として、学生サービスセンターが学生生活全般に関わり、事務職員は学期ごとに行われる授業評価アンケートや成績評価の集計を行い、学生の学習成果を把握している。また、毎週1回、全職員会議を開催し、業務予定の確認、学内の状況やセンター運営全般、学生の動向等を把握して業務の適切な運営に努めている。

SDとして、職員は大学運営に関わる学外研修に努めて参加しており、教務全般や学生支援、進路支援に活用している。

本学では、効果的な学習に資するため4教室にマルチメディア設備を有している。機器類の保守管理は職員が担当し、不都合が生じた場合は即時的に対応している。

図書館は、学生の学習支援を目的とし、新入学時に図書館利用に関するガイダンスを実施し、図書館の基本的な使い方から蔵書検索、文献検索の方法等について案内することで学生の学習意欲を引き出すよう努めている。新着図書を紹介を掲示とウェブサイトで行っており、学生からのリクエストにも積極的に応じ、利用サービスの向上に努めている。また、教育実習や保育実習の前には貸出冊数を増やしたり、貸出期間を延長する等学生の実習に成果が上がるような支援をしている。

本学にはコンピュータ教室が2教室あり、66台のコンピュータを設置している。学生には入学時に個々にメールアドレスを付与して、学外からでもメール送受信等ができるようにしている。学内LANを整備し、レポート等の課題は学生がパソコン上で提出することができる。

コンピュータ関連の授業においては、履修者全員がパソコンを使用することができるようになっている。コンピュータ教室のうちの1室は常に学生の自習用に開放し、レポート作成や情報検索等が行えるようにしている。コンピュータに関する基本的な技術や活用の方法は、1年次の卒業必修の授業として位置づけ、担当教員が中心に指導に当たっているほか、学生数名のアシスタント・ティーチャーが付き、個々の学生がパソコン技術を習得できるように支援している。

平成26年度には2教室(211・212教室)でICT機器の整備を行い、1教室(305教室)を大型のスクリーンに変更したため、教育的環境が改善して授業の幅が広がり、学生の学習成果の獲得につながっている。

#### (b) 課題

学習成果の状況を適切に把握するために行われている従来の「授業評価アンケート」を踏まえてFDに反映させ、教育内容の見直しや授業改善を個々の教員に課すだけではなく、学科として組織的に課題改善に取り組んでいくことが必要である。

学生にわかりやすい授業をするために、また学生の主体的な学習活動を支援するためにさらなるIT機器の施設設備の充実とその有効活用が必要である。

### 【区分 基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に 行っている】

#### ■基準Ⅱ-B-2の自己点検・評価

##### (a) 現状

新年度開始時に実施するオリエンテーションにおいて、学科の教員並びに学生サービスセンター職員が、「学生便覧」や「免許・保育士資格取得所要単位」の一覧表をもとに、単位認定や履修に関する事項、取得可能資格等についての説明及び時間割の作成指導を丁寧に行っている。特に、新入生は高校から短期大学とシステムが異なる学校へ進むこと、全学生が原則的に幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得することから、授業の形態（講義系・演習系・実技系）や卒業に向けての履修の仕方、資格に合わせた科目の選択について、十分に時間を取り、具体的な説明を行っている。また、1年生は入学直後に実施する1泊2日の校外研修の中で、学生便覧をもとに学生生活全般の諸注意、学内規程の説明、履修登録に向けた個別的指導を行っている。

さらに2年生に対しては、1年次の成績表をもとに、今後の履修について個別に指導し、確実に卒業ができるように支援している。

また、各授業のオリエンテーションでは、その授業の特性やねらいと併せて、具体的な説明を行っている。このようにして、学生が主体的に獲得すべき学習成果をイメージできる場面を設けている。

学生への指導体制は1・2年ともクラス担任制をとっており、主にクラス担当教員が

修学や学生生活全般にわたる指導や助言を行っているが、学生の指導はクラス担当教員の他に、実習支援室や進路支援室等の教員、学生サービスセンターの職員等全学を挙げて学生の指導・助言を行う体制をとっている。

学習支援のための印刷物として、「学生便覧」や「免許・保育士資格取得所要単位」の一覧表を発行し、学生に配布している。また、「シラバス」についてはウェブサイト上で閲覧でき、履修登録もウェブ上で行うことができる。ウェブ履修登録は、登録期間中であれば何度も修正可能となり、履修漏れやその他の手続きの不備に対して迅速に対応することができるようになっている。

入学予定者には、高校までに習得すべき基礎的な学力の確認と継続した学習習慣の維持及び入学後の学習意欲につなげていくことを目的に、入学前の学習課題を課している。また、教養科目の「日本語表現」を1年次・2年次に設定して必修科目としており、漢字の読み・書きと文章作成を中心とした日本語表現学習を行い、基礎学力の向上を目指している。基礎学力が不足する学生に対しては、日常的に個別指導や試験対策指導を行うようにしている。

学習上の悩みには、前述したクラス担当教員が中心に相談に応じているが、教職員間で日常的に情報を交換するよう努めながら学習支援を行っている。また、だれでも自由に相談できる体制として、各教員が週に2コマのオフィスアワーを設けて学生支援を行っている。

授業の進行は、小集団学習や討論、カンファレンスなど多様な方法を取り入れ、学生が主体的に学びを展開するアクティブラーニングも展開するように工夫している。この工夫により、学びを学生個人のものとして閉じられることのないよう、小集団の中で確かめたり再構成したりして、進度の早い学生は学びをより深化・統合できる機会を多く設け、進度の遅い学生には学習方法の改善を図る工夫をしている。

留学生の受け入れ及び留学生の派遣は行っていない。

#### (b) 課題

学習成果を数値化（GPA）し、それを学生への適切な学習指導に活かしていくことを目指しているが、数値化が難しい芸術（表現）系統の科目については成績評価の方法や手順がまだ未成熟である。学習成果を、学生指導に反映させるための構造化について今後考えていきたい。

学力不足の学生、学習成果の獲得が不十分な学生には、クラス担当教員が中心となり科目担当教員と連携しながら個別指導を行っているが、組織的な支援のあり方を検討し、学生に対する効果的な指導法を確立していきたい。

優秀な学生のみならず、すべての学生において満足できる授業へと改善するために、今以上の工夫が求められる。具体的には、FD活動として学生の授業評価の積極的活用や、教員が授業を参観し合う機会の増加、研究会の実施による具体的な授業改善の視pointsの描き出しなどが考えられる。学習の習熟度と併せた指導について模索中である。

**[区 分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている]**



■基準Ⅱ-B-3の自己点検・評価

(a)現状

学生への経済的支援のため、「関東学園奨学規程」及び「関東学園授業料等減免規程」はあるが、本学での適用者はいない。関東学園奨学規程第2条に基づく「災害時の被災学生・生徒に対する奨学支援細則」では、東日本大震災の被災学生への適用があった。

本学では学生生活を支援するための組織として、年度当初、学長・学科長の指名によるクラス担任、各委員会、担当（顧問）を指定している。委員会等での事務処理については学生サービスセンターで担当し、日常の学生指導・学生相談等は、クラス担任、担当教職員、学生サービスセンターが連携して行っている。

主な委員会等としては、教務検討会議、図書委員会、学術図書刊行担当、FD委員会、進路支援担当、実習支援担当、学生指導担当、広報推進会議等を組織している。

そのほか、各種学校行事、学納金・奨学金、健康・生活管理、各種届出・申請、学友会・クラブ・サークル担当等により教職員が連携しながら支援を行っている。

学友会は全学生によって構成され、総会で承認された事業計画、予算に基づいて活動を行っている。本部（正副会長、総務、会計、会計監査、広報）と、本部の推薦・指名による各実行委員会の正副委員長が協力して運営にあっている。

学友会の主な実行委員会としては、アザリア祭（文化祭）、校内スポーツ大会、七夕祭り、クリスマス会、卒業祝賀パーティーなどがある。

各実行委員会には、学生指導担当（顧問）、学生サービスセンター職員が年間活動方針、計画についてアドバイスをしている。

クラブ・サークル活動、学友会活動についても、教職員の担当（顧問）並びに学生サービスセンター職員が担当し、学生が主体的に参画し活動できるように、指導・支援にあっている。

学生食堂はスチューデントホールに隣接して設置しており、飲料やアイスクリーム、菓子パンの自動販売機を置き、学生のアメニティに配慮している。

学生のための寮は設置していないが、近隣には学生対象の低廉なアパートが多数存在し、希望学生には紹介をしている。最寄りの鉄道駅から本学までは徒歩15分程度であり、また、通学に自家用車を利用する学生が6割と多く、通学バスは運行していない。

学生の意見を聞くための取り組みとしては、学生食堂メニューの要望を取り入れたり、学長行きの投書箱（学長ポスト）を設置して、学生の意見や要望の聴取に努めている。

身体障がいをもつ学生の受け入れは、校内の一部にスロープを設けているものの、昇降機や身体障がい者用のトイレ設備はない。本学が、幼稚園教諭や保育士等の対人援助職の養成校であり、卒業後の進路を考慮すると、入学試験の時点で就職を意識した選考が行われるため、障がい者への支援体制はほとんどないといえる。

学生のボランティア活動、地域貢献活動など、将来の進路にも有益な場合が多いため、大学として積極的に参加するよう要請している。学生の社会的活動に対する社会の評価は高いものがあり、今後も推奨していくことが望ましい。

(b)課題

学生の多様化により支援が必要な学生が増加しており、指導・相談も多岐にわたるため、専門知識を持った教員の配置や教職員の資格取得などの資質向上が必要であるとともに、物的資源として環境整備をしていく必要もある。また、学生指導担当、進路指導担当、相談室、保健室、学生サービスセンターのさらなる連携強化が求められる。臨床心理士資格を有する2名の教員が、必要に応じて継続的な面接を行う体制をとっている。早期に学生の異変を発見するには、クラス担任、授業担当教員及び保護者からの情報収集、情報共有が必要である。

ボランティア活動、地域貢献活動など社会の評価は高いが、授業時数の確保のため、週末に補講を実施している状況では授業出席数との関係で参加できないことも多く、今後の検討課題といえる。多くの学生が自主的に参加することが可能となるように、教員と担当部署が連携して参加しやすい体制の整備を行っていききたい。

**[区 分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている]**

■基準Ⅱ-B-4の自己点検・評価

(a)現状

本学の進路支援は就職支援、進学支援を含めた教職員からなる進路支援室を中心にクラス担任と連携して学生の就職、進路支援を行っている。

具体的には、1年次後期に「キャリアサポートⅠ」、2年次前期に「キャリアサポートⅡ」という授業科目を設け、一般教養、論作文の作成等、就職試験対策や公務員試験対策といった実際の就職活動を行う際に有効な講座を開設し、学生の就職への意識向上を図っている。また、週に2回希望者を対象にした課外の進路支援講座を設け、専任教員と職員が連携しながら基礎学力向上のための講座、進路相談、履歴書作成の指導、模擬面接、編入学支援など、学生の希望や求人先の実情を考慮した指導を行っている。さらに夏季休業中には「群馬県私立幼稚園統一試験」に向けた試験対策講座(60分×6講座)も実施している。

本学では幼稚園での教育実習や保育所実習で実習先に就職する学生もいるため、各実習支援室とも連携を図りながら、これまでの幼稚園、保育所、施設との関係性を大切にしながら指導も行っている。

1年次の3月には就職希望調査を行い、学生から提出された調査書をもとに、クラス担任と就職担当職員が連携し、学生の適性を見ながら希望に沿った情報提供や就職指導を行っている。また、クラス担任は個別面談等を通して将来を見据えた進路指導を1年次から行い、2年次には全教員がオフィスアワー等の時間を活用して、個別に模擬面接を行うなど、具体的な就職試験対策に力を入れている。さらに、年1回、学生保護者対象の教育懇談会を実施し、クラス担任と保護者が生活面、学習面、進路についての懇談を行っている。

学生への情報提供としては、学生サービスセンター内に進路コーナーを設置し、学生が自由に求人票の閲覧をしたり、進路支援担当職員に相談をすることができる体制を整えている。また、インターネット検索用のパソコンを開放する等、学生が主体的

に情報を集めることができるよう配慮している。

平成 26 年度の求人件数は幼稚園、保育所、一般企業等 767 件であった。卒業生 126 名中 116 名が就職希望であり、そのうち 113 名が就職で、就職決定率は 97.4%であった。また、126 名中 2 名は進学を希望し、希望の 4 年制大学へ編入学した。

平成 26 年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

【平成 26 年度卒業生の進路状況】 平成 26 年 3 月 31 日現在

		計
卒業生数		126
進路状況	就職希望者	116
	就職内定者	113
	就職未定者	3
	大学編入希望者	2
	大学編入合格者	2
	就職・編入学以外 (アルバイト・家事等)	8

【採用区分と職業別一覧】

	幼稚園教諭		保育士		施設	一般企業	計
	公立	私立	公立	私立 (保育事業 所含む)			
正規採用	0	34	1	51	12	11	109
臨時採用	0	0	3	0	0	1	4
計	0	34	4	51	12	12	113

学生の進路決定状況を把握するために、就職内定者には「進路決定届」、「就職活動内容報告書」を進路支援室に提出させており、就職試験の内容等を把握し、その結果を今後の学生への進路支援に活用できるようにしている。

就職のための資格取得としては、幼稚園教諭二種免許、保育士資格に加え、「音楽・表現」、「心理」、「スポーツ」、「栄養・食物」、「ビジネス」の 5 つのフィールド科目の中から自由に選択し、自分の好きなこと、得意なこと生かした資格取得ができるよう教育課程を用意し、社会や学生の多様なニーズに応じた学びができるようにしている。

平成 26 年度のフィールド科目に関わる資格取得状況は次のとおりである。

【フィールド科目に関わる資格取得状況】

資格	取得者数
リトミック 2 級指導資格	51
児童厚生 2 級指導員	15
ピアヘルパー	6
レクリエーションインストラクター	34
ベビーシッター	65
幼児体育指導者	3
合計	174

(b) 課題

昨今の保育業界の人材不足や認定こども園の増加等の影響を受け、幼稚園、保育所からの求人件数は増加しており、企業等も合わせると学生一人当たり平均 5.2 件の求人があった。しかしながら、就職意志のない学生、意志はあっても動き出さない学生もおり、二年間の中でのさらなるキャリア教育の充実と、学生一人ひとりに応じた個別指導が今後ますます必要と思われる。

さらに、社会人としての一般常識やマナーの乏しい学生、コミュニケーション能力の低い学生も少なくなく、基礎学力の向上と併せてマナー教育、コミュニケーション能力の向上を図るプログラム等も取り入れる必要がある。

〔区 分 基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。〕

■基準Ⅱ-B-5の自己点検・評価

(a)現状

入学者受け入れの方針は、学校案内や学生募集要項に明記し、併せてウェブサイトにも掲載している。また、オープンキャンパスや進学相談会、高校訪問、高校教員を対象とした学校説明会等を通し、受験生及び広く一般に対して周知を図っている。

入学試験に関する外部からの問い合わせ先は広報室が窓口となっているが、その内容に応じて担当を分けている。具体的には、オープンキャンパス、進学説明会、学校見学、入学試験等の問い合わせについては広報室が、学生生活、奨学金やアパート等の問い合わせについては学生サービスセンターが対応している。また、オープンキャンパスや学校説明会では、参加生徒が具体的な学科の内容や学生生活等について理解を深められるよう、模擬授業体験を実施し、入学試験、奨学金、特待生制度等について個別相談に応じている。その際は、広報室のみならず教職員全体で受験生からの質問に応じる体制を取っている。

入学者選抜は推薦入学試験、AO 方式入学試験、一般入学試験、大学入試センター試験利用、社会人入学試験、キャリアアップ入学試験があり、現役生から社会人までの幅広い層に向けて、受験の機会の公平性を期すために、多様な選抜方法を設けている。

推薦入学試験においては、指定校推薦と公募推薦の 2 種類の区分を設けている。合否判定については、入試区分に応じた選考方法により入学を許可する者の候補者名簿を作成する。そして、学長が委任する入試判定委員会の意見を徴し、学長が合否決定したのち教授会で報告することとしており、いずれも公正かつ正確に実施している。

また、推薦、AO方式、一般、センター試験利用の4つの入学試験では特待生制度を実施している。これは、入学金の全額免除又は一部減免によって、入学生の学習意欲に応える制度である。選考は高校在学中の評定平均値、若しくは入学試験の成績、高校在学中の課外活動や資格取得状況も選考の対象とした基準を設け、教授会の審議を経て該当者を決定している。

入学手続き者に対しては、保護者を含めた入学前説明会を12月、2月の2回実施している。本学の教育理念や教育目的、入学後の学習内容（主に免許・資格取得にかかわる授業内容、ピアノ実技等）について説明するとともに、入学後の学習を円滑に行うため、全入学生に対して事前学習として課題を課し、入学後の学習に向けた準備に取り組むようガイダンスを行っている。

入学後は、学内でのガイダンスを2日間、校外研修を2日間、計4日間でオリエンテーションを実施している。学内ガイダンスでは学科長が建学の精神や教育理念、教育目的についての講話を行い、クラス別のホームルームにおいて担任教員が履修の登録方法や学生生活における諸注意、図書館の利用方法、学内の諸手続きについての指導を行っている。校外研修は、2年間の学修の構築を図り、良き友人関係を築くことを目的として行われており、学長、学科長の講話や、教育・保育実習支援室及び器楽担当教員によって2年間の学習内容や学習目標についての説明を行っている。また、この研修には2年生もアシスタントとして参加し、担任教員の補佐を行うとともに、履修登録及び学習上の留意点の説明や学生生活に関する助言をし、新入生がより良い学生生活を送れるよう、教員、学生アシスタントが一丸となって支援を行っている。

#### (b)課題

保育者不足が社会問題となっている中、養成校には保育現場において即戦力となる保育者の育成が求められる。そのために、保育者には保育技術のみならず幅広い知識、高いコミュニケーション能力が必要となる。それらを踏まえ、本学では入学者受け入れの方針として3つを掲げているが、本学が求める人物像に合った入学生を受け入れるため、今後はなお一層徹底して受け入れ方針の周知を図りたい。